

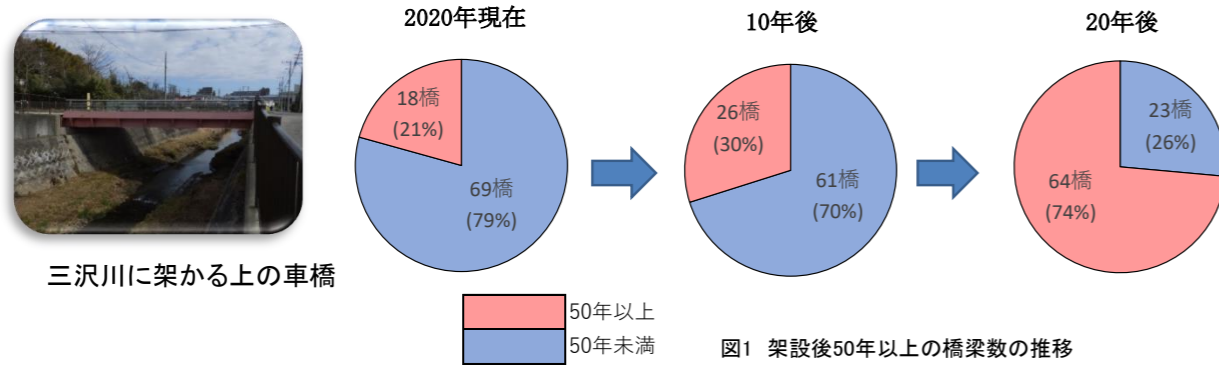
稲城市橋梁等長寿命化修繕計画（概要版）

令和4年2月

1 稲城市の管理する橋梁の現状

全て維持管理が容易な橋

稲城市の管理する橋梁は合計87橋です。しかし20年後には半数の橋梁が架設年数50年を超えてしまいます。一般的な橋梁の耐久年数は50年程度で、事後的（損傷が進行してから対応）な修繕及び架け替えでは**莫大な費用**が必要になります。そこでより一層効率的・効果的な修繕に取り組むため、今後50年間にわたる「長寿命化修繕計画」を策定しました。



稲城市が管理する橋梁の定期点検を実施（対象橋梁 87橋）

稲城市では平成28年度から令和3年度にわたり全87橋について、近接調査を実施しました。深刻な損傷は発見されませんでした。写真のように修繕が必要な損傷が幾つか確認されました。



近接調査風景



2 長寿命化修繕計画の概要

橋梁の修繕は、次の2つがあります。

損傷が進行してから対応する「事後保全型」

- ・異常・損傷が明らかになってからの対応。
- ・異常発見後、大規模な補修や架替えを実施。→莫大な費用を要する。
- ・対応直前は、橋梁としての機能性・安全性が共に著しく低下する。
- ・工事には時間が必要であり、インフラとしての道路ネットワークに長期間影響を及ぼす。

計画的に対策を実施する「予防保全型」

- ・5年毎の定期的な点検を実施。
- ・異常・損傷を早期発見し、道路ネットワークの安心・安全を確保。
- ・点検結果を元に最適な修繕方法を検討。
- ・損傷の進行具合を予測し計画的な修繕を実施。

長寿命化修繕計画は「予防保全型」を実施し、橋梁の「長寿命化」を図ります。

3 長寿命化修繕計画の効果

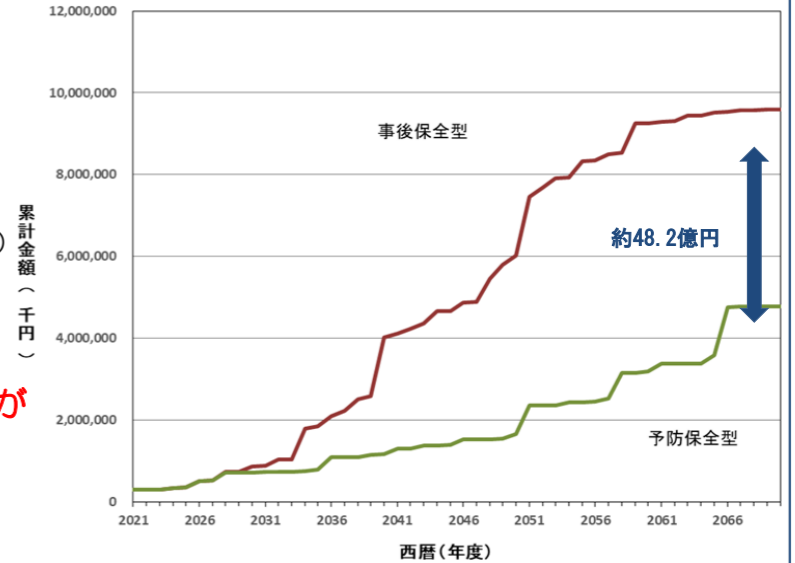
長寿命化

- ・事後保全型は大規模な工事を必要とし、また橋梁数が多いため人員的にも予算的にも、十分な対応ができない恐れがあります。
- ・適切な維持管理を行うことで、橋梁の**耐用年数を50年から100年に延長**できます。

コスト削減

- ・従来の事後的な対応を実施した場合の費用（50年間総費用）約96.0億円
- ・計画的な対応に基づき修繕を実施した場合の費用（50年間総費用）約47.8億円

**コスト削減効果
96.0－47.8＝48.2億円が
期待できます**



4 今後10年間(2022年～2031年)の修繕計画

橋梁等長寿命化修繕計画に基づく補修及び5年毎の定期点検を行います。

- ・補修については、実施する前年度に1橋の設計を行います。（2022年度より設計実施予定。）
- ・設計を基に、翌年度に1橋の補修を行います。（2023年度より補修実施予定。）
- ・定期点検については、点検要領に基づき、5年毎に定期点検を行います。

5 トンネルの修繕計画

橋梁等長寿命化修繕計画に基づく5年毎の定期点検を行います。

- ・土地区画整理等にて整備したトンネル2箇所（上平尾トンネル・小田良トンネル）については、竣工後、初回点検を実施しました。今後も5年毎の定期点検を行います。

6 計画策定担当部署および意見聴取した学識経験者

(1) 計画策定担当部署

稲城市 都市建設部 管理課 維持補修係
TEL: 042-378-2111

(2) 意見を聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

東洋大学 名誉教授 福手 勤 先生